

問題解決の手順と方法

情報の科学 第16回授業

03問題解決

対応データ 17exp15.xls(前回)

演習3(つづき)

「通学路で事故や事件が起こる原因となりそうなもの」を単語で挙げてみよう。

- しっかり「便乗」しよう！
- 「鉛筆」の時のように、多くの視点から自由に。
- 一見関係なさそうなものも受け入れる。
- 4W1H (what、where、when、who、how)を意識。
- 見えるもの、見えないものなど、何でも良い。
- ブレーンストーミング+「5秒」+「2ペナ」
- 出てきたものを、シートに記入していく

アイデアを整理する方法

トレーニング2

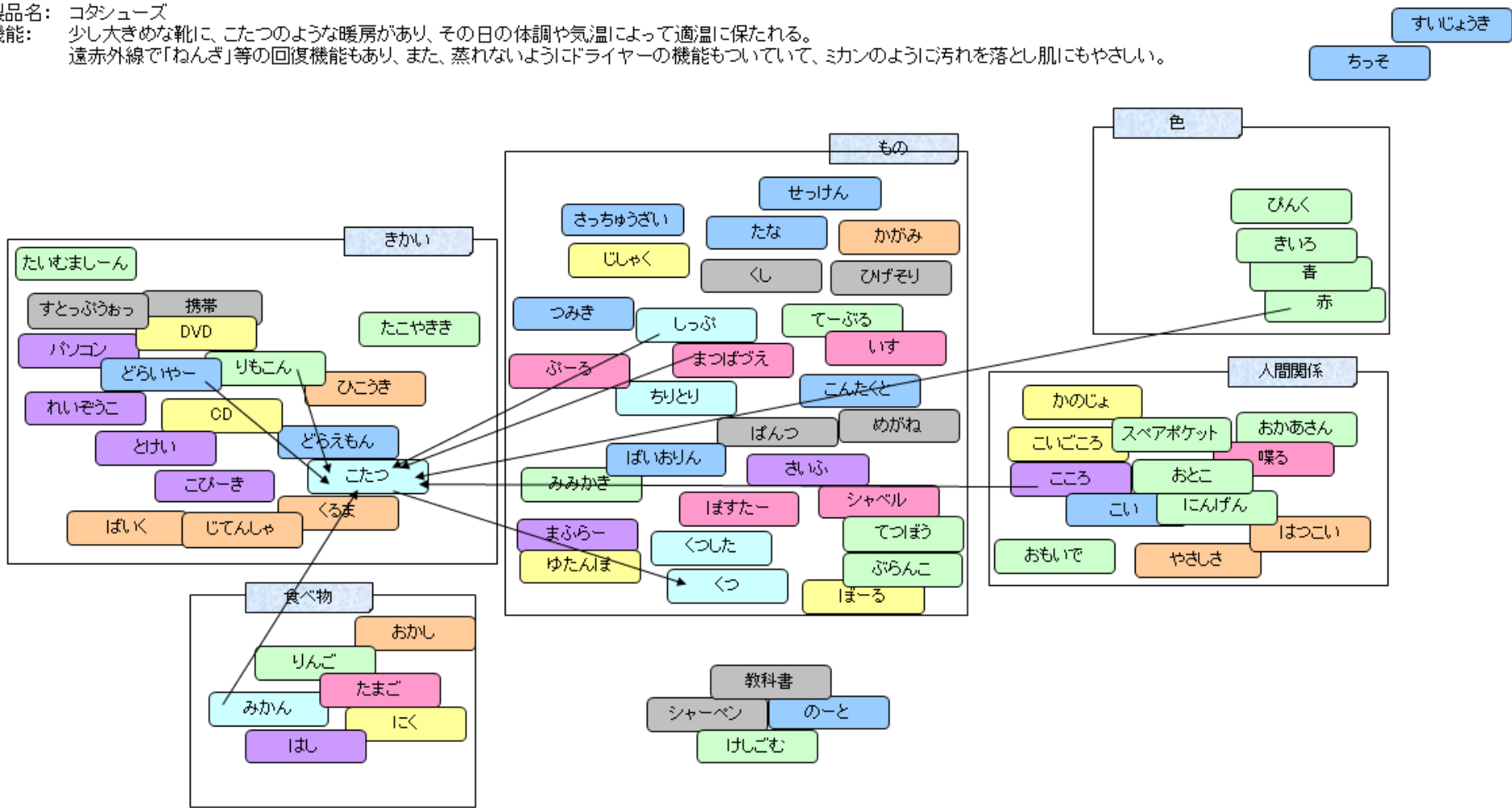
「カードを用いたアイデア整理法」(P.95)

1. ブレインストーミング等で出てきた内容を、グループ分けする。
2. グループごとに、簡単に名前をつける。
3. 似たもののグループは近くに配置
4. それらを眺め、典型的なストーリーを。

アイデア整理の例 (未来の「情報機器」の開発)

製品名: コタシューズ

機能: 少し大きめの靴に、こたつのような暖房があり、その日の体調や気温によって適温に保たれる。
遠赤外線「ねんぎ」等の回復機能もあり、また、蒸れないようにドライヤーの機能もついていて、ミカンのように汚れを落とし肌にもやさしい。



演習4(7分)

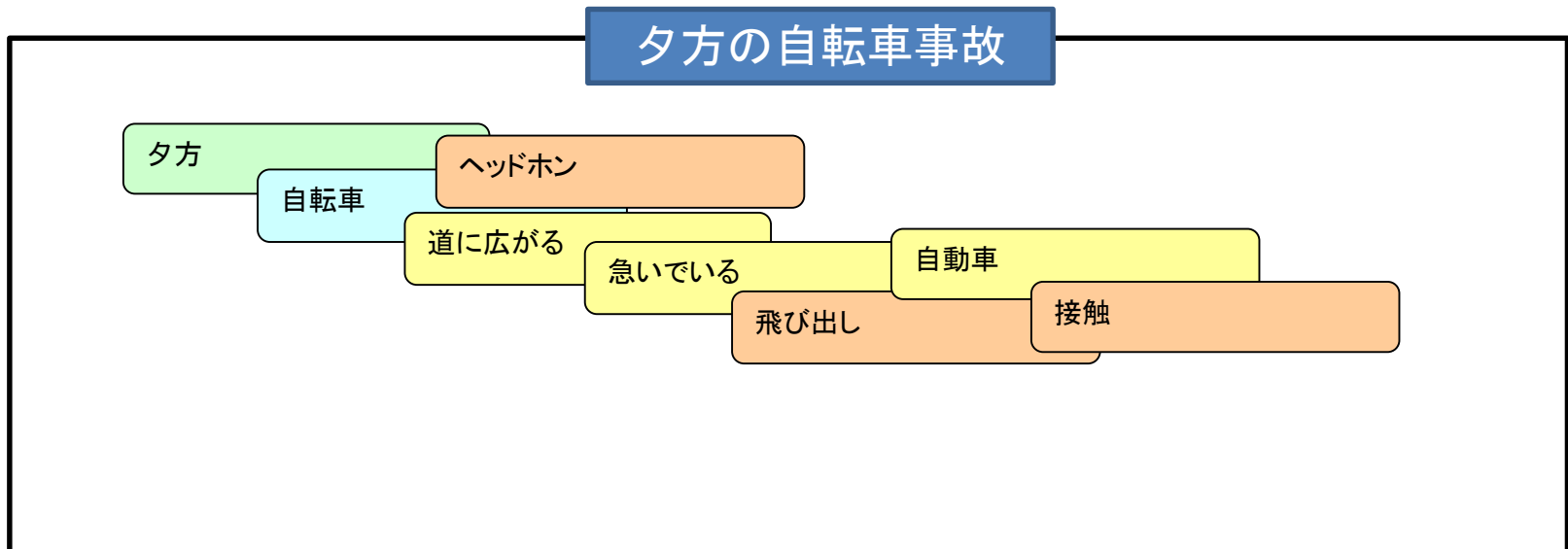
演習3で挙げた内容を、アイデア整理法でまとめ、自分たちの事故のストーリーを、できるだけ複雑・詳細に書いてみよう。

<ポイント>

- 4W1Hフレームワークで割り振ったものを結びつけ、少し着眼点を変えて、いろいろな可能性を考えよう

慣れてくると・・・

- あらかじめ、便乗してストーリーを作りながらブレーストーミングを行うことも！



まとめ

- 問題を発見したり分析する場合、発想を広げ、よりたくさんアイデアから考えると良い
- フレームワークやブレインストーミングが役に立つ場合が多い
- アイデアを整理する方法などを用いることにより、上手にストーリーを組み立てることもできる